

1 目的

人権尊重の精神に基づき、人権感覚を磨き、人の痛みの分かる豊かな感性を培うと共に、人権が尊重される学校づくりに向けた具体的な態度や行動がとれる児童の育成を目指すことを目的とします。

2 内容

(1) hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

年間2回 hyper-Q-U検査を行い、その結果を基に研修会で講師の杉村秀充先生から、学級や個々の児童のアセスメントの仕方について学びました。その後、学級担任がクラスの児童一人一人と教育相談を行いました。

(2) ハンセン病の学習（6年生対象）

講師に小笠原英司先生を招き、ハンセン病についての話を聞くことで、差別や偏見について考え、人権についての理解を深めると共に、人権意識の向上を図りました。

(3) 授業力向上研修

年間5回、教職員の授業力向上研修を実施しました。講師の中村浩二先生から、道德の教材研究の仕方について、実際に先生が授業をしてくださり、それを見て具体的にご示唆をいただきました。また、算数科等の授業公開を行い、児童が主体的に取り組む授業について全職員で考えました。研修や授業研究を通して学んだことを生かし、児童が「もっと学びたい」「わかった」と実感できる授業を目指しました。



【授業力向上研修】

(4) 「温かい人間関係づくり」を目指した学級経営研修

毎月1回、全学級「人権タイム」を設定しています。「やくそくノート」を用い、ソーシャルスキルトレーニング等を通して、よりよい人間関係を築く力を身に付けるための学習活動を行いました。年間2回、学級経営研修で講師の奥村桂子先生から教えていただいた構成的グループエンカウンターも活用しながら、一人一人が居場所を感じられる学級づくりに取り組みました。



【S S T研修】

(5) 命の授業（6年生・2年生対象）

11月と12月、講師に岐阜大学名誉教授の近藤真庸先生をお招きして実施しました。6年生では、「いじめ」や「生きること」について近藤先生自身の幼少期の体験を踏まえて、



【命の授業（6年）】

2年生では、「食育」をテーマに自分たちの体がどんな食べ物でつくられているかについて、お話をさせていただきました。

6年生の児童は、真剣な眼差しで近藤先生の話に耳を傾け、授業の最後には「感動したお話のお礼」として、先生に合唱を贈る姿が見られました。2年生の児童は、ペープサートや歌と踊りを通して、楽しみながら命や自然の恵みについて理解を深めました。



【命の授業（2年）】

3 評価

（1）hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

hyper-Q-U検査の結果から、学級や児童の実態を客観的に把握・分析した上で教育相談をすることで、個々の抱える悩みに応じた話や助言をすることができました。

（2）ハンセン病の学習（6年生対象）

小笠原博士の偉業について学ぶと共に、正しい知識をもたないことからくる差別について、考える機会をもちました。そして、誰もが幸せに生きる権利をもち、それを侵害することは許されないという態度を養いました。

（3）授業力向上

研修を通して、教職員が授業の「何を」「どのように」改善すればよいか考え、話し合うことで、授業観を共有することができました。

（4）「温かい人間関係づくり」を目指した学級経営研修

人権タイムにおいては、よりよい人間関係を築く技術を構成的グループエンカウンターを用いて実践的に学ぶことができました。また、人権タイムでの学びを踏まえて、人権集会において多くの児童の前で学んだことを実践し、他学年の取組を知り視野を広げ、互いを尊重することについて考えを深めることができました。

（5）命の授業

学年に応じた講演をしていただき、それぞれ「命の大切さ」について考えることができました。その後、道徳科や学級活動等において、講演内容と関連付けた内容を取り上げることで、継続的な学びとなりました。

4 課題

「相手の立場に立って考える」「互いを尊重する」という考えが知識のみにとどまらず、日常生活の中で、継続的・実践的な態度や行動として根付くよう、幅広い教育活動の中で人権教育を進めていくことが課題です。

1 目的

講師や学習支援員を招いて、外部人材の教育力を取り入れた教育活動を推進します。

2 内容

(1) 刷毛の先生（4年生対象）

地域の伝統産業である刷毛づくりについて、実際に携わる方からお話を聞きました。実物を見せていただきながら工程やそれにかかる努力や工夫について学びました。

(2) 特別支援学級 生活単元講師

自立活動の授業において、特技をもつ地域の方を講師として招き、音楽療法や調理実習を行い、生活面で必要とされる技能の習得を図りました。音楽療法では、音楽療法士の若山美幸先生を講師に招き、音楽を通して自分を表現し、人とコミュニケーションについて学びました。



【音楽療法】

3 評価

(1) 刷毛の先生（4年生対象）

刷毛づくりやそれに携わる人たちの思いを知り、自分の住む地域の特色やよさについて考えを深めることができました。

(2) 特別支援学級 生活単元講師

級友と一緒に楽器を鳴らしたり、料理をしたりする中で、コミュニケーションの取り方や生活に必要な技能について学ぶことができました。

4 課題

専門的な知識や、これまで積み重ねてきた経験に基づいた講師の方のお話や講習は説得力があり、児童・職員の心に響くものが多くありました。本校の児童に必要な専門的な知識と技能をもった方々をさらに発掘し、どのように学校教育に参加していただくのか今後の課題です。

1 目的

ペア学年でふれあい活動することにより、異学年の交流の活性化を図り、仲間意識を高めます。その活動の中で、助け合い、認め合い、思いやり、相手への感謝等、児童に人権が尊重される学校づくりに向けて具体的な態度や行動がとれる実践力を、養うことを目的とします。

2 内容

(1) 特別支援学級のふれあい活動

特別支援学級5クラスの児童で、鈴入りボールを投げたり振ったりしてその音を楽しみました。また、音を手がかりにキャッチボールをしたり、ボール回しゲームをしたり、レクリエーションを楽しみました。



【ふれあい活動】

3 評価

コロナ禍のため、休み時間を利用したペア学年ふれあい活動は難しい状況となりましたが、学年でのレクリエーション活動を行いました。内容やルールを決めるにあたり、児童が主体となり、計画・実施することで、相手の立場を思いやり、助け合いながら、学級の垣根をこえて交流を深める姿が見られました。

4 課題

コロナ禍の中で、できることを考え、他者の立場を思いやって立案・計画を進める力、協力して活動しようとする姿勢を養うため、活動内容と方法にさらなる工夫をし、制約のある中でもできる活動を検討していくことが課題です。